

講演者、パネリストの主な著作（司法制度、司法への市民参加に関する内容に限る）

○丸田隆

- ・『アメリカ陪審制度研究—ジュリー・ナリフィケーションを中心に—』（法律文化社、1988年）。
- ・『陪審裁判を考える—法廷に見る日米文化比較』（中央公論社、1990年）。
- ・『アメリカ民事陪審制度—『日本企業常敗』仮説の検証—』（弘文堂、1997年）。
- ・『日本に陪審制度は導入できるのか—その可能性と問題点』（現代人文社、2000年）。
- ・「アメリカの法曹制度」広渡清吾編『法曹の比較法社会学』（東京大学出版会、2003年）153-183頁。
- ・『裁判員制度』（平凡社、2004年）。

○利谷信義

- ・「司法に対する国民の参加—戦前の法律家と陪審法」『岩波講座現代法 6』（岩波書店、1966年）365-391頁。
- ・「検察審査会と国民の法意識」『戒能博士還暦記念 日本の裁判』（日本評論社、1968年）231-278頁。
- ・「戦後改革と国民の司法参加—陪審制・参審制を中心として—」『戦後改革 4 司法改革』（東京大学出版会、1975年）77-172頁。
- ・「条約改正と陪審制度」社会科学研究 33 巻 5 号（1981年）1-32頁。
- ・「貰い子殺人陪審事件」潮見俊隆＝北野弘久＝小田成光＝鳥生忠佑編『松井康浩弁護士還暦記念 現代司法の課題』（勁草書房、1982年）205-251頁。
- ・「天皇制法体制と陪審制度論」日本近代法制史研究会編『日本近代国家の法構造』（木鐸社、1983年）515-570頁。
- ・「日本の陪審法—その内容と実施過程の問題点—」自由と正義 35 巻 13 号（1984年）4-12頁。
- ・『日本の法を考える』（東京大学出版会、1985年）。
- ・「講演録／陪審制度を考える」東京辯護士会々報 72 号（1987年）106-116頁。
- ・「講演録／陪審法を考える」司法の窓（東京司法書士会会報）74 号（1990年）4-21頁。

○戒能通厚

- ・「イギリス司法の歴史的構造に関する一考察」藤倉皓一郎編『英米法論集』（東京大学出版会、1987年）1-27頁。
- ・「イギリス司法の歴史的特質」法の科学 15 号（1987年）135-145頁。
- ・「イギリスの社会と法」『外国法—イギリス・ドイツの社会と法』（共著）（岩波書店、1991年）1-149頁。
- ・『現代イギリス法辞典』（編）（新世社、2003年）。
- ・「総論・イギリス憲法実像の現在—二つの世紀末における司法改革の論理と構造・1」法律時報 81 巻 8 号（2009年）50-56頁（連載中）。

○四宮啓

- ・『O.J. シンプソンはなぜ無罪になったか—誤解されるアメリカ陪審制度』（現代人文社、1997年）。
- ・『バーチャル・陪審ハンドブック—もしも陪審員として裁判所に呼ばれたら』（花伝社、2001年）。
- ・『実務家のための裁判員法入門』（共著）（現代人文社、2004年）。
- ・『もしも裁判員に選ばれたら—裁判員ハンドブック』（共著）（花伝社、2005年）。
- ・『ここだけは聞いておきたい裁判員裁判 31 の疑問に答える』（共著）（日本評論社、2009年）。

○安原浩

- ・「裁判員制度導入の意義について考える」本林徹ほか編『宮本康昭先生古稀記念論文集—市民の司法をめざして』（日本評論社、2006年）445-461頁。
- ・「裁判主体を変える裁判員裁判に期待する—再び『裁判員制度導入の意義について考える』」季刊刑事弁護 56 号（2008年）8-13頁。

○小嶋明美

- ・『現代中国民事訴訟法』(晃洋書房、1992年)
- ・『現代中国の民事裁判—計画から市場へ、経済改革の深化と民事裁判—』(成文堂、2006年)。
- ・「職権探知主義の規整—中国民事訴訟法を素材として—(1・2)」山形大学法政論叢43号(2008年)1-34頁、44・45合併号(2009年)43-70頁。

○鈴木賢

- ・「中国における民事裁判の正統性に関する一考察—民事再審制度を素材として—」小口彦太編『中国の経済発展と法』(早稲田大学比較法研究所、1998年)369-409頁。
- ・「中国における市場化による『司法』の析出—法院の実態、改革、構想の諸相—」小森田秋夫編『市場経済化の法社会学』(有信堂、2001年)239-284頁。
- ・「中国の法曹制度」広渡清吾編『法曹の比較法社会学』(東京大学出版会、2003年)341-384頁。
- ・「中国における裁判の独立の実態と特徴的構造」社会体制と法8号(2007年)48-65頁。

○小森田秋夫

- ・『ソビエト裁判紀行』(ナウカ、1992年)。
- ・『現代ロシア法』(編)(東京大学出版会、2003年)
- ・『ロシアの陪審裁判』(東洋書店、2003年)。
- ・「ロシアにおける刑事司法の構造転換—被疑者・被告人の権利の視点から」広渡清吾=大出良知=川崎英明=福島至編『小田中聰樹先生古稀記念論文集 民主主義法学・刑事法学の展望 下巻 刑法・民主主義と法』(日本評論社、2005年)463-487頁。
- ・「ロシアにおける裁判の独立—裁判官自治と裁判官の身分保障の視角から—」社会体制と法8号(2007年)2-25頁。
- ・「裁判への国民参加—参考になるかロシア陪審制」(2009年)(NHK ラジオ「私も一言! 夕方ニュース」出演録 <http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/~komorida/NHK.htm>)。
- ・「ロシア陪審制のいま—ポルトコーフスカヤ殺害事件の裁判とその周辺—」ユーラシア研究41号(2009年11月刊行予定)。

○工藤美香

- ・「市民の司法参加と社会・序説—世界の陪審・参審制度の素描と裁判員制度の位置づけ」(共著)司法改革調査室報2号(2003年)52-92頁。
- ・『実務家のための裁判員法入門』(共著)(現代人文社、2004年)。
- ・「アメリカ陪審制度見聞記—陪審員選定手続と広報・教育活動から学ぶ」季刊刑事弁護40号(2004年)139-145頁。
- ・『もしも裁判員に選ばれたら—裁判員ハンドブック』(共著)(花伝社、2005年)。
- ・「裁判員制度の導入と刑事司法制度改革—これまでの経緯と今後の課題」司法改革調査室報5号(2005年)74-119頁。

○齋藤哲

- ・「市民法における国民の司法参加—ドイツ民事参審制度(名誉裁判官)に関する沿革的考察を中心にして」『民事訴訟法学の新たな展開—中村英郎教授古稀祝賀』(成文堂、1996年)789-825頁。
- ・「オーストリア陪審制度の成立略史—国民の司法参加を唱える憲法国家の刑事法廷を訪ねて」島大法学42巻4号(1999年)241-271頁。
- ・『市民裁判官の研究』(信山社、2001年)。
- ・「裁判員制度の意義と課題—市民の積極的参加を希求して—」都市問題研究58巻4号(2006年)94-109頁。

○平野潔

- ・「放火罪」川端博編著『刑法判例演習（法科大学院テキストシリーズ）』（北樹出版、2004年）170-186頁。

○飯考行

- ・「裁判員制度の生成経過－司法制度改革論議の動態分析に向けて－」早稲田大学大学院法研論集 99号（2001年）1-28頁。
- ・「市民の司法参加と社会・序説－世界の陪審・参審制度の素描と裁判員制度の位置づけ」（共著）司法改革調査室報2号（2003年）52-92頁。